

## 鈴木其一 四季花鳥図屏風+三彩と漆器

東京黎明アートルーム（東中野） 2022.05.28～07.02

「東京黎明アートルーム」は、“人間にとって美や芸術がとても大切であることを説き、自ら収集した作品を広く公開するなど美術の普及に力を尽くした”「岡田茂吉」（1882～1955）の心を受け継ぎ、2005年に宗教や教会と言った枠を超え、美への貢献を目標とする TOREX Art Room を開室した館である。

鈴木其一 《四季花鳥図屏風》 右隻 1854年 紙本金地著色

春から夏にかけての植物が「約26種類」：コブシ、モチツツジ、ヤマツツジ、ワラビ、シュンラン、アズマギク、タンポポ、スマレ、フキ、フキノトウ（?）レンゲ、ヤエムグラ、シャガ、アザミ、タチアオイ、カキツバタ、モジズリ、ケシ、ケマンソウ、ヒルガオ、カンゾウ、タケニグサ、コジュズケイ、ムクゲ、ササ、テッセン（?）が描かれている。



鈴木基一 《四季花鳥図屏風》 左隻 1854年 紙本金地著色

秋から冬にかけての植物が「約22種類」：アサガオ、オミナエシ、トロロアオイ、ハウセンカ、ツユクサ、ソバ、ワタ、イヌタデ、クズ、ケイトウ、ツワブキ、リンドウ、ハゲイトウ、ノコンギク、キク、オヒシバ、ユキノシタ、ヤブコウジ、スイセン、ウメ、ツタ、サザンカが画面を飾っている。

